

平成 1 0 年 度

# 秋田県環境技術センター一年報

第 2 6 号

( 1 9 9 8 )

秋田県環境技術センター

## はじめに

この年報は、当センターの平成10年度の事業概要と調査研究の概要を年報第26号として取りまとめたものであります。

秋田県の環境は一部の河川・湖沼で生活排水による水質汚濁などがあるものの、大気、水質関係ともおおむね環境基準を達成しており、全般的に良好な環境が維持されております。

しかし、近年の経済成長と科学技術の進歩に支えられて、私たちの生活は便利で快適なものとなった一方で、生活排水による水質汚濁、自動車排出ガスによる大気汚染、廃棄物の増大などの日常生活に深くかかわりのある都市・生活型の環境問題が顕在化しております。

また、地球の温暖化、オゾン層の破壊、酸性雨等の地球的規模の環境問題は、人類の生存基盤にかかわるものとして、全世界が一致協力して取り組まなければならない重要な課題であります。

近年、身近な環境問題として注目されているものに、ダイオキシンや外因性内分泌攪乱化学物質（環境ホルモン）による環境汚染問題があります。平成12年1月15日には「ダイオキシン類対策特別措置法」が施行され、本県でもダイオキシン類の分析のための人材の育成、分析設備の整備を図って行かなければならないと考えております。

平成10年度は、白神山地における有害大気汚染物質の濃度レベルの把握に関する調査研究、十和田湖の水質と水産の管理技術に関する基礎研究、人工湖の水質汚濁機構解明に関する調査研究等のほか、大気や水質の常時監視はもとより、有害大気汚染物質調査、水質環境基準調査、土壌汚染対策調査等にも鋭意取り組んでおります。

今後とも、環境の監視や公害の未然防止に努めるとともに、地域に密着した環境全般の調査研究を推進するほか、環境情報を広く県民に提供し、環境保全意識の高揚を図ることにより、本県の良好な環境の保全に努めたいと考えております。

なにとぞ、本年報を御高覧のうえ、御助言、御指導を賜れば幸いと存じます。

平成12年1月

秋田県環境技術センター  
所長 岩山 勝男